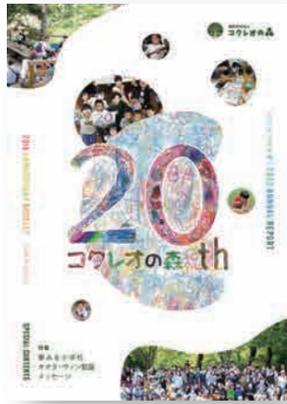


20周年記念誌発行!



20周年記念誌がやっとできあがりました。20周年の企画チームが立ち上がったのは2021年11月。月1回のリアル会議で、なぜ20周年をやるのかなどを話し合いました。その後、記念誌チームとイベントチームに分かれ、記念誌チームは過去の記念誌や他団体の記念誌を参考にしながら、イメージを膨らませていきました。初めは、正方形でオシャレなのを考えていましたが、昨年から年次報告書ができ、今年も発行時期が重なるので、合体させたものになりました。今回は、対談コーナーを入れることになり、20年を4つの時代に分け、立ち上げメンバーや元スタッ

フ、元保護者、卒業生にそれぞれ集っていただき、懐かしいお話を伺うことができました。対談は楽しかったのですが、文字起こしは大変でした!皆さんの素敵な笑顔とともに素敵な冊子ができあがりました。年次報告書とともに今回の発行に際し、協賛でご寄付いただいた方、デザインでご協力いただいた方、対談をまとめたり、写真を段取りしてくれたメンバーに心よりお礼申し上げます。コクレオの森が「はたち」になり、これからどう社会に羽ばたいていくのかがとても楽しみです。お手元に届きましたら、ゆっくりご覧いただけますと幸いです。(中村 幸子)

通常総会を開催しました

6月10日(土)に、通常総会を開催しました。久しぶりのリアル開催と、オンラインでも繋いだハイブリッド方式。会場の設営と受付とオンラインの配信など、いろんな方が役割を引き受け担ってくれて、つつがなく準備され、無事に開くことができました。コクレオの森では、いろんな人が合流してきてくれて「ともにつくる/コクレオの森」があるのですが、それぞれのスキルだったり、持ち味だったり、足し算や掛け算になって、どんどんいいものが創られていっています!

総会の後は、久しぶりにリアルな場での懇親会を開催。コロナ禍では、懇親会もオンラインで開催していたので、新しく入られた方には、今まで懇親会でいただいていた副代表の「ムッシュの手料理」が伝説になっていたのですが、ようやく、みんなでいただくことができました!

やっぱり、同じ場所で、顔を見ながら、おいしいものを食べるって大事なことですよね! 今後は、そんな機会を増やしていければと思いますので、ぜひぜひご参加ください。(藤田 美保)

インフォメーション

... こぞたて...

発見・つくるを楽しむ里あそびの4つの提案 (川西市黒川里山センターにて開催)

◆親と子の土曜クラス「そら」 ※ただ今キャンセル待ち受付中

対象: 満3歳~就学前の親子 活動時間: 10:00~15:00
参加費: 後期: 29,700円

後期日程 10月7・21日 / 11月4・18日 / 12月16日 / 1月20日 / 2月3・17日 / 3月2日

◆土曜親子クラス「森のアトリエ」

対象: 小学生の親子 活動時間: 10:00~15:00
参加費: 単発4,100円 / 後期: 17,500円

後期日程 10月28日 / 11月25日 / 1月27日 / 2月24日 / 3月23日

◆小学生の里山スクール「風」

水曜クラス-後期(10月~3月)全21回
木曜クラス-後期(10月~3月)全21回

★水木クラス(月8回)・単発参加あります。詳細はお問合わせください。
参加費 単発4,100円 / 後期: 67,200円
※各クラス12月に特別企画オプションあり

◆中学生の里山スクール「泉」

毎月第2/4金曜日 10:30~16:00
対象: 中学1~3年生(最大10名程度)

2023 10月13,27日、11月10,24日、12月8,22日
2024 1月12,26日、2月9,16日(第3金曜)、3月8,22日
参加費 初回参加 2,000円 / 継続参加 3,900円

黒川里山センターの
情報はコチラから→



... こぞたて...

子育てカフェ&子育てBAR こどもの森のハッピーアドバイス

「シーズン2*大好き!が伝わる子育て」オンライン開催

子育てカフェ:10/11(水)、11/8(水)、12/13(水) 10:00-12:00(昼)
子育てBAR:10/19(木)、11/16(木)、12/21(木) 20:00-22:00(夜)

第2回 「リフレーミングの魔法」
第3回 「ほめない叱らない子育て」
第4回 「子どもと対話しよう」

定員:子育てカフェ&子育てBAR/それぞれ20名
参加費: 2000円/各回



《編集後記》

8月に毎年「ビジョンミーティング」というものを開催しています。自分たちの在り方や、これからの方向性など、たくさんの方を話し合います。今年は20周年という節目の年。そんな中でどんなことが話し合われたのか。ぜひ中面の記事をお読みください。(藤原 浩志)

発行日: 2023年9月22日

発行者: 認定NPO法人 コクレオの森



〒562-0032大阪府箕面市小野原西6-15-31
TEL&FAX: 072-735-7676
メール: info@cokreono-mori.com
URL: https://cokreono-mori.com/



第11号 秋季



コクレオてらす

写真: 2023ビジョンミーティング



自分に合った教育を選べる社会へ

岡本 智子

私はこどもの森の事務スタッフです。学習には関わっていないので、こどもの森で毎日なが繰り広げられているのか、把握しきれていません。しかし、スタッフルームに来る子どもたちの様子や学習スタッフの日々を眺めつつ、もれ伝えるエッセンスを拾い集め、公立学校に通う我が子の子育てに活かしています。

子ども時代を子どもらしく過ごせるようにと思っていますが、公立では大人が準備した場で、大人の指示の中で過ごす時間が多く、子どもたちが主導権を握っている時間がほとんどないのが今のこどもの置かれている現状です。一方、こどもの森では全校集会があり、子どもも大人も関係なく話し合う場があります。各々が考え、日々の学校生活に活かされる経験をうらやましく思います。

予測不能な社会情勢の中、子どもも大人も不安を抱えており、例にもれず私自身も親として、子どもの将来を先回りして心配して、口をはさんでしまうのです。そして、子どもが中学

生になり、「定期テスト」がありました。打ち出された「評価」に揺れました(子どもではなく私が)。学力のために日々、追い立てなくてもよいと考えていたはずが、急に競争社会の渦に飲み込まれ、この流れからはじき出されるのではという不安の中にいます。幸い子ども自身は、雑談の面白い先生の授業や部活、友達との生活を楽しみに中学校に通っています。子どもたちが多くの時間を過ごす学校時間の中に評価をしない時間が増えたら、子どもたちも生き生きと過ごせるのではないかなと思うのです。

既存の学校とこどもの森のような学校のどちらが優れているというのではなく、子ども自身が自分に合った教育を選べる世の中になればよいと感じています。そのためには、こどもの森のこれまでの教育実践から見てきたことを明らかにし、社会化することをしなくてはいけないと考えています。社会全体の子どもたちが幸せになるように、できることはまだまだたくさんあるのではと思っています。

こどもの森



テーマ学習「こども基本法～ひとはみな自由～」を通して考えたこと

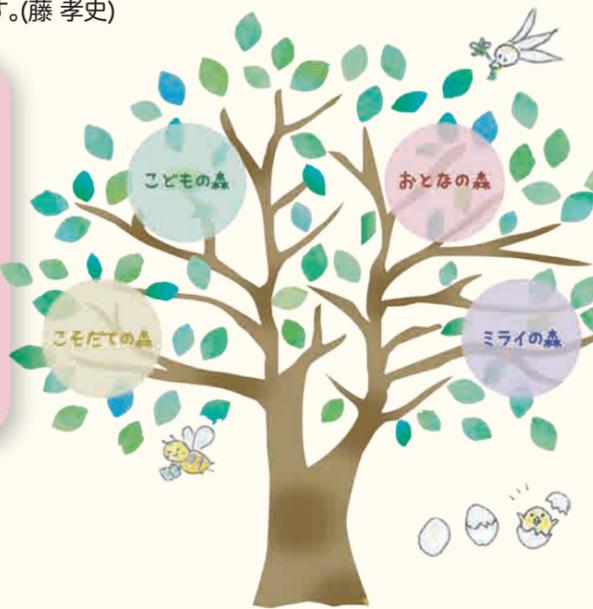
1学期のテーマ学習、高学年では「こども基本法」を取り上げました。この4月からこども基本法が施行され、改めて子どもたちの権利も大切にしていけるためにも、まずは当事者である子どもたちに知ってもらい、ともに権利について考えていくことになりました。

学習を進めていく中で感じたのは、僕が思っていた以上に子どもたちは「自分の話を聞いてもらえたか」「みんなで決められているか」で、自分が大切にされていると感じるかどうかが大きく左右されるということです。もちろん個人差はあるでしょうが、そこが満たされていると、結果が思い通りでなかったとしても、納得感を持ちやすかったり、相手にも考えや事情があるということを受け止めやすかったりしているようでした。

思えば公立学校教員時代、勤務していた学校で子どもの権利としてよく話に出てきていたのは「学習権」でした。学習する

ことは子どもたちの権利だから、侵害させてはならない。邪魔をする行為を許してはいけない。けれど、その一方で休む・遊ぶ権利などは学校で語られることはあまりなかったように感じます。それは結局、僕自身も含め、自分たちにとって都合のいい、周りから批判されない正当性の高い理由として相手の権利を利用していただけで、本当に相手の権利を尊重していたわけではなかったのだと、今なら思います。

当事者の話を聞く。当事者として自分はどうしたいのかを素直に話す。そして、そこに摩擦が起きた時には、お互いに権利があることを前提に、お互いが納得できる選択をとるに見つけようとしていくこと、つまりは対話をしていくことが、権利を尊重することなのだと思いました。自分たちにはどんな権利があるのかを学ぶとともに、配慮はしても遠慮はせず、相手の話を聞きながら自分の気持ちも素直に出していけるようになればいいと思います。(藤 孝史)



『話し合い』の積み重ね

長男が箕面こどもの森学園に入学し5年生になりました。その間に次男もお世話になることになり、現在2年生。毎日2人から楽しい学校生活の様子を聞かせてもらうのですが、私の関心は『話し合い』が身につけていること。学校のイベントについて、クラスメイトとの小競り合いが起きた時など様々なシーンで『話し合い』の場が設けられています。兄弟ゲンカも拳で決着がつくことは無く、お互いが自分の思いを自分の言葉で伝え合っています。時には泣きながら一生懸命意見を言う姿にこちらが泣けてくることもあります。

家の近くの友達は幼稚園児～中学生まで幅広く、遊びも様々。先日、何をして遊ぶかで多数決を取り、遊びが決まりました。しかし1人、不満そうな顔をしている子が。その1人の気持ちを放置することなく、もう一度みんなで話し合い、最後には全員一致で遊びが決まりました。大人が関わることなく自分たちで考える姿を日々、感心しつつ微笑ましく眺めています。(嶋田 智之)

保護者より

こそだての森



コクレオ流 子育ての場

主に0～3歳の親子対象の「子育てひろば だんでらいおん」は、結果的には1年3カ月という短い期間でしたが、コクレオ初の業務委託事業。スタッフとして関わらせてもらった私自身がとても居心地良く過ごせる場でした。ありのままの自然体で、親子に向き合える場で安心感に満ちていたと思います。メンバーは総勢9名。みんな週に1、2回の出勤。年齢も経験も得意も苦手もいろいろ。キャラの濃いスタッフの仕事ぶりに惚れていました。オープン当初からリアルで全員集合したことがなく、打合せも月に1回程度オンラインのみでしたが、「得意」と「やりたい」を紡いでいくというやり方で場が回っていました。スタッフがみんなそんな在り方でしたから、私も最初は、利用者の親子にもその雰囲気のおすそ分けがしたい、安心して遊びに来て欲しいという気持ちだったと思います。

子どもたち一人ひとりと向き合っていると、その子の面白さや興味や世界観に気づきます。その瞬間を親と共有し、一緒に喜び合えることが私にとっては最高の時間でした。「補おう

とする」のではなく、その子そのままですでに尊いを前提とした「見つける」作業。これを親とリアルタイムで共有することによって、「自分が相手をどのように見ているかということが相手に影響を与える(何かを生む)」ということを親子の皆さんに体感してもらえたのではないかと思います。

私の中のこの「人間観・子育て観」ができたのは、コクレオの森に関わることで得られたものです。そして、この人間観・子育て観が、今の時代に求められているものだからこそ、子育てで毎日大変な思いをされている利用者の親子の心の奥深くに響いたのだと思います。それを、日々肌で感じていました。

こどもの森が20年間かけて大事にしてきたこの人間観・子育て観を、コクレオを全く知らない人にこういった形で知ってもらえることは、NPOの事業としてはとても効果のある活動であったと思います。今後また、こういった業務委託を依頼してくださる行政が出てきて欲しいなあ～と日々妄想しています。(小野 淑子)

おとなの森



社会と関わり、前進する力をもらえる場所

私が初めて教育カフェマラソンに参加したのは、2020年の夏。箕面こどもの森学園に在学時から、様々なバックグラウンドの方々に会うことが多かった私。卒業してから改めて、様々なゲストのライフストーリーを聞き、参加者の方と対話を重ねることで、自分の知らない世界が広がる楽しみを毎回感じています。小学生の参加者が経験した話で盛り上がりたり、自分が知らないことをシェアしてもらったり、「そういう考えもあるのか!」とハッとさせられることが多く、その対話の中から生まれる気づきやワクワクは、対話の可能性を感じる瞬間でもあります。

以前NO YOUTH NO JAPANの代表・能條桃子さんを、教育カフェマラソンのゲストにお招きしました。同世代として、いつか直接お話を聞き、話せる機会があれば!と学生時代から願っていたので、とても刺激的な時間になりました。能條さんが、デンマーク留学時代を踏まえて、「私たちが生きる社会は

私たちが作る」と話してくれました。この言葉通り、一人ひとりが社会の主人公として生きていくために、世代や属性を超え、誰かの考えを否定したり攻撃したりしない"対話の場"を重ねていくことが、民主的な社会を実現していく上で大切になると感じた会でした。

3年前、家族以外の社会と関わりを持つ機会がほぼなくなり、悶々として生活していた私。卒業後この教育カフェマラソンと出会い、社会と関わり、また前進する力をもらった大切な場所になっています。(多喜 春華)



皆さん、対話疲れしていませんか?

2023年4月から毎週金曜22時「スナックくれお」はゆるりとZOOM営業を続けています。オンラインって遠方の方も繋がれる魅力的なツールですよね。でも、会議や講座では話すテーマが決まっているし、打合せも真剣モードが多くて、なかなか「雑談」の時間って少ないと思いませんか。お酒とツマミは持参になりますが、話を聞いて欲しい時もそうでない時も、気が向いた時にスナックの扉をクリック。フラッと立ち寄り「雑談」できる場がここにあります。

20周年を迎えたコクレオの森。きっと、小さな種から共感の輪がどんどん広がり、人と人が繋がり合っ、今に至ったと想像ができます。やっぱり「人」なんですよね。だから私はコクレオで繋がった人と、もっと「雑談」して思いに触れたい、もっと知りたいと考えています。それでは皆さん、気が向いた時にぜひ「スナックくれお」の扉をクリックしてみてください。お待ちしております。(松浦 淑之)

《「スナックくれお」毎週金曜22時オープン!》
お店の道案内(ZOOM ID:876 3945 6936)
オンラインヴェリッジでもアナウンスしています。

ミライの森



2023 コクレオの森ビジョンミーティング

8/11(金)～12(土)の2日間、コクレオの森のビジョンミーティングを実施しました。ビジョンミーティングではコクレオの森の在りたい姿やビジョンを共有し、一人ひとりの活動が全体の活動に効果的に繋がるような調整の場にできたらという願いから毎年開催しています。

このビジョンミーティング、昨年は「コクレオの森の存在目的を考え、Why・What・Howの言葉を作ろう」というテーマで実施しました。その中では多くの候補となる言葉が出されたものの、参加者全員で「今のコクレオの森を一言で言い表すことのできるWhy・What・How」を納得して決めるまでには時間が足りず、一つの言葉にまとめられなかった経緯があります。そのため、今年も引き続きそのワークに取り組み、「言葉を決める」という意志を持って臨みました。この「言葉を決める」という作業は大変な困難を極めるものであり、今年も参加者からは多くのアイデアや多方面から対立する意見が出され、途中、何度も暗礁に乗り上げそうになりました。しかしながら、一人ひとりから湧き上がる思いに耳を傾けながら全員で粘り強く推敲を重ねた結果、最終的に次の言葉に到達することができました。

- Why(なぜ、コクレオの森は社会に存在しているのでしょうか?) ⇒ 「わたしを生きる人が増える」
- What(コクレオの森が社会や相手に届けている具体的な価値は何でしょうか?) ⇒ 「自分も人も大切にすること」
- How(その価値を私たちはどのような姿勢や思いで届けるのでしょうか?) ⇒ 「信頼・対等・対話」

この言葉は今のコクレオの森を表す言葉として一旦決めたものであり、今後も必要に応じて見直していくことも視野に入っていますが、私たちはコクレオの森に関わる全員がこのWhy・What・Howに対して自分の活動が沿っているかを確認する拠り所になる言葉と考えています。

つまり、「信頼」をベースに「対等」な関係で「対話」を紡ぐことにより、「自分も人も大切にすること」エッセンスに関わる人々に伝わり、究極的には「わたしを生きる人が増える」社会づくりの一翼を担うことがコクレオの森の存在目的であり、この実現を目指して一つひとつの活動を積み重ねているのだと言えます。

今後、私たちのこのような思いや姿勢に共感し、コクレオの森の活動の担い手となる人々が増え、社会全体に「わたしを生きる人」が波紋のように広がっていくことを期待せずにはいません。(川越 剛)